

検査内容変更のお知らせ

謹啓 時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。
この度、下記検査項目におきまして、検査内容の変更をご案内いたします。
健康と医療の未来に貢献すべく、より良い検査サービスのご提供に努めてまいります。

謹白

記

■ 変更日 2025年4月1日（火）ご依頼分より

※有機溶剤・鉛検査の報告書変更については、2025年4月1日（火）ご報告分より変更させていただきます。
※嫌気性培養の容器変更については、2025年5月中旬以降、順次の切り替えをさせていただきます。

■ 変更項目

アミラーゼ (AMY)	尿中スチレン代謝物	シアリル Tn 抗原 (STN)
P型アミラーゼ定量	尿中N-メチルホルムアミド	ヒトパピローマウイルス (HPV) ジェノタイプ判定
δ-アミノレブリン酸 (δALA)	尿中2, 5-ヘキサンジオン	ツツガムシカーブ IgG
尿中総三塩化物 トリクロルエチレン	鉛 (Pb)	ツツガムシカーブ IgM
尿中総三塩化物 1・1・1-トリクロルエタン	シクロスポリン	ツツガムシカトー IgG
尿中総三塩化物 テトラクロルエチレン	タクロリムス	ツツガムシカトー IgM
尿中トリクロル酢酸 トリクロルエチレン	末梢血液像	ツツガムシギリアム IgG
尿中トリクロル酢酸 1・1・1-トリクロルエタン	フィブリノーゲン (FIB)	ツツガムシギリアム IgM
尿中トリクロル酢酸 テトラクロルエチレン	アンチトロンビンⅢ (ATⅢ)	嫌気性培養
尿中馬尿酸	トロンビン・アンチトロンビンⅢ複合体 (TAT)	抗酸菌薬剤感受性
尿中メチル馬尿酸	プラスミノーゲン	


■ その他

- 電子カルテデータの基準値変更は4/1以降順次対応させていただきます。
- 一部の電子カルテにおきまして、検査情報の変更（項目コード、検査名称、基準値等）が発生した場合、前回値表示で段ずれが発生してまいります。ご承知おきくださいますようお願い申し上げます。

●変更一覧表

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
血清 00109 部分尿 01108	アミラーゼ (AMY)	項目コード	血清 変更はありません 部分尿 変更はありません	血清 00109 部分尿 01108	測定試薬変更に伴う、検査方法、基準値、報告範囲、報告桁数の変更 保存(安定性)を追記 (※詳細については、6ページをご参照ください)
		検査方法	JSCC 標準化対応法	酵素法 (Gal-G2-CNP 基質法)	
		基準値 (単位)	血清 44~132 (U/L) 部分尿 変更はありません	血清 37~125 (U/L) 部分尿 65~700 (U/L)	
		保存 (安定性)	冷蔵 (28日)	冷蔵	
		報告範囲	3未満、 3~99900000	2未満、 2~99999999	
		報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数0桁	有効8桁、整数8桁、小数0桁	
		JLAC10 コード	変更はありません	血清 3B160-0000-023-271 部分尿 3B160-0000-001-271	
36821	P型アミラーゼ 定量	項目コード	A3467	36821	測定試薬変更に伴う、項目コード、基準値、保存(安定性)、報告範囲、報告桁数の変更 (※詳細については、7ページをご参照ください)
		検査方法	変更はありません	JSCC 標準化対応法	
		基準値 (単位)	16~52 (U/L)	21~64 (U/L)	
		保存 (安定性)	冷蔵 (14日)	冷蔵 (21日)	
		報告範囲	3未満、 3~99900000	3以下、 4~99999999	
		報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数0桁	有効8桁、整数8桁、小数0桁	
		JLAC10 コード	変更はありません	血清 3B175-0000-023-271	
38739	シクロスポリン	項目コード	A8787	38739	測定試薬変更に伴う、項目コード、検査方法、報告範囲、報告桁数の変更 保存(安定性)を追記 (※詳細については、8ページをご参照ください)
		検査方法	CLEIA	ECLIA	
		基準値 (単位)	変更はありません	なし (ng/mL)	
		保存 (安定性)	凍結 (14日)	凍結	
		報告範囲	30.0未満、 30.0~3990、4000以上	30未満、 30~99900000	
		報告桁数	有効3桁、整数4桁、小数1桁	有効3桁、整数8桁、小数0桁	
		JLAC10 コード	全血 3M805-0000-019-052	全血 3M805-0000-019-053	
87410	タクロリムス	項目コード	A8796	87410	測定試薬変更に伴う、項目コード、検査方法、報告範囲、報告桁数の変更 保存(安定性)を追記 (※詳細については、9ページをご参照ください)
		検査方法	CLEIA	ECLIA	
		基準値 (単位)	変更はありません	なし (ng/mL)	
		保存 (安定性)	凍結 (21日)	凍結	
		報告範囲	0.50未満、 0.50~79.9、80.0以上	0.50未満、 0.50~99900000	
		報告桁数	有効3桁、整数2桁、小数2桁	有効3桁、整数8桁、小数2桁	
		JLAC10 コード	全血 3M810-0000-019-052	全血 3M810-0000-019-053	

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
50083A1	抗酸菌 薬剤感受性	項目コード	変更はありません	50083A1	試薬製造会社の販売終了により、 試薬キットの薬剤組成の変更 (硫酸エンビオマイシン (EVM) の削除)
		報告薬剤	硫酸ストレプトマイシン (SM) 硫酸エタンブトール (EB) 硫酸カナマイシン (KM) イソニアジド (INH) リファンピシン (RFP) レボフロキサシン (LVFX) エチオナミド (TH) パラアミノサリチル酸ナトリウム (PAS) サイクロセリン (CS)	硫酸ストレプトマイシン (SM) 硫酸エタンブトール (EB) 硫酸カナマイシン (KM) イソニアジド (INH) リファンピシン (RFP) レボフロキサシン (LVFX) エチオナミド (TH) パラアミノサリチル酸ナトリウム (PAS) 硫酸エンビオマイシン (EVM) サイクロセリン (CS)	
		総合検査 案内備考欄	SM, EB, KM, INH, RFP, LVFX, TH, PAS, CS を実施します。検査結果はカテゴリー (S:感受性 R:耐性) を報告します。 &1	SM, EB, KM, INH, RFP, LVFX, TH, PAS, EVM, CS を実施します。検査結果はカテゴリー (S:感受性 R:耐性) を報告します。 &1	
A017 2	ヒトパピロー マウイルス (HPV) ジェノタイプ 判定	項目コード	分画親: B245 8 分画子が6個から13個に変更になります 試薬の変更はありません 子1: B246 7 16型 子2: B247 6 18型 子3: B248 5 31型 子4: B249 4 33型 子5: B250 2 35型 子6: B251 1 39型 子7: B252 0 45型 子8: B253 9 51型 子9: B254 8 52型 子10: B255 7 56型 子11: B256 6 58型 子12: B257 5 59型 子13: B258 4 68型	分画親: A017 2	報告形態変更に 伴う、項目コード、 項目構成(分画子)、 基準値の変更
		基準値	検出せず	陰性	
L101 7	末梢血液像	項目コード	変更はありません	L101 7	白血球分類の参照法 (reference) のフローサイト メトリー (FCM) 法への 変更に伴う基準値変更 (※詳細については、10ページ をご参照ください)
		基準値 (単位)	分画親に変更はありません 【変更になる分画子】 好中球 41.2~75.4 好酸球 0.7~8.9 好塩基球 0.2~1.8 単球 4.6~11.8 リンパ球 16.5~47.8 (%) ※桿状核球、分葉核球、骨髄芽球、 前骨髄球、骨髄球、後骨髄球、異型 リンパ球、赤芽球、OTHER1、 OTHER2、OTHER3、大小不同、 多染性、奇形に変更はありません ※試薬の変更はありません	桿状核球 0.0~6.0 分葉核球 32.0~73.0 好中球 40.0~74.0 好酸球 0.0~6.0 好塩基球 0.0~2.0 単球 0.0~8.0 リンパ球 18.0~59.0 骨髄芽球 なし 前骨髄球 なし 骨髄球 なし 後骨髄球 なし 異型リンパ球 なし 赤芽球 なし OTHER1 なし OTHER2 なし OTHER3 なし 大小不同 (—) 多染性 (—) 奇形 (—) (%)	

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
5001596	嫌気性培養 (口腔、気道または呼吸器からの検体)	(採取)容器	(容器記号) 変更ありません (容器名称) シードチューブII	(容器記号) n (容器名称) 嫌気ポーター	使用容器の販売中止に伴う、代替容器への変更
5001696	嫌気性培養 (消化管からの検体)	新容器情報		※容器容量：4mL 内容：寒天、塩化ナトリウム、リン酸塩等 貯蔵方法：室温 有効期間：製造から6ヵ月	
5001796	嫌気性培養 (泌尿器または生殖器からの検体)				
5001896	嫌気性培養 (血液または穿刺液)	総合検査案内	2024～2025 版、114 ページ	総合検査案内の細菌検査採取方法の記事内容を変更いたします 1. 「嫌気ポーター」を「シードチューブII」に変更いたします 2. 説明図の変更をいたします	
5001996	嫌気性培養 (その他の部位からの検体)				
3131 2	シアリルTn抗原 (STN)	所要日数 (日)	2～8	2～5	所要日数の見直し
3376 1	ツツガムシギリアム IgG		3～7	3～6	
3375 2	ツツガムシギリアム IgM				
3378 9	ツツガムシカトー IgG				
3377 0	ツツガムシカトー IgM				
3380 6	ツツガムシカーブ IgG				
3379 8	ツツガムシカーブ IgM				
0848 0	フィブリノーゲン (FIB)	検査項目名称	フィブリノーゲン (FIB)	フィブリノーゲン (FIB)	適切な項目名称への変更
4122 1	アンチトロンピンⅢ (ATⅢ)		アンチトロンピン (AT)	アンチトロンピンⅢ (ATⅢ)	
A258 5	トロンビン・アンチトロンピンⅢ複合体 (TAT)		トロンビン・アンチトロンピン複合体 (TAT)	トロンビン・アンチトロンピンⅢ複合体 (TAT)	
4119 5	プラスミノゲン		プラスミノゲン	プラスミノゲン	

項目コード	検査項目	変更内容	新	現	備考
部分尿 2609 3	δ-アミノ レブリン酸 (δALA)	有機溶剤・鉛 検査	尿中総三塩化物 1,1,1- トリクロロエタン	尿中総三塩化物 1・1・1- トリクロロエタン	報告書記載の対象物質名称、報告書文章の変更、対象物質の追加 総合検査案内の変更
蓄尿 2610 1			尿中トリクロロ酢酸1,1,1- トリクロロエタン	尿中トリクロロ酢酸 1・1・1- トリクロロエタン	
4721 6			N,N-ジメチルホルムアミド	N・N-ジメチルホルムアミド	
4722 5	尿中総三塩化物 1・1・1-トリ クロロエタン	専用 報告書	報告書内にある対象物質「キシレン」行と「トリクロロエチレン」行の間に「スチレン」の行を追加いたします		
4723 4	尿中総三塩化物 テトラクロ ロエチレン		下記の文章を追記いたします		
4724 3	尿中トリクロ ロ酢酸 トリク ロロエチレン	報告書 文章	特定化学物質健康診断においては、労働基準監督署への分布区分報告は不要となっておりますが、検査結果の経過を見る上での指標として記載いたします。		
4725 2	尿中トリクロ ロ酢酸 1・1・ 1-トリクロ ロエタン		2024~2025版、100ページ		
4726 1	尿中トリクロ ロ酢酸 テトラ クロロエチレン	総合 検査案内	① 検体取り扱い方法の記載内容を、変更いたします		
4697 4	尿中馬尿酸		②		
4698 3	尿中メチル 馬尿酸		<ul style="list-style-type: none"> 有機溶剤関連検査結果分布表と、鉛関連検査結果分布表に分割いたします 分布表の記載内容を、整理いたします 		
9179 4	尿中スチレン 代謝物				
4703 6	尿中N-メチル ホルムアミド				
4704 5	尿中2, 5-ハ キサンジオン				
2620 0	鉛 (Pb)				

新

生化学検査
産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査参考資料

産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査

産業医学関連検査は、有機溶剤作業、鉛作業を主として、体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の区別を目的としたものではなく、作業環境を改善するための有用な情報を提供いたします。また、労働安全衛生法に基づく各中継試験項目は、各種検査結果報告書を、所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤関連検査結果分布表 有機溶剤健康診断結果報告書(有機溶剤中継試験、様式第3号の2)より

対象物質	測定項目	単位	分布		
			1	2	3
トルエン	尿中濃縮値	μL	15以下	18 25以下	25以上
キシレン	尿中メチル馬尿酸	μL	0.5以下	0.5 1.5以下	1.5以上
1,1,1-トリクロロエタン	尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10 40以下	40以上
トリクロロ酢酸	尿中トリクロロ酢酸	mg/L	3以下	3 10以下	10以上
N,N-ジメチルホルムアミド	尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10 40以下	40以上
ホルムアルデヒド	尿中ホルムアルデヒド	mg/L	2以下	2 5以下	5以上
スチレン	尿中スチレン代謝物	μL	10以下	10 30以下	30以上
トリクロロエチレン	尿中総三塩化物	mg/L	10以下	10 40以下	40以上
トリクロロ酢酸	尿中トリクロロ酢酸	mg/L	3以下	3 10以下	10以上
テトラクロロエチレン	尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3 10以下	10以上
鉛	尿中鉛	mg/L	3以下	3 10以下	10以上

※1: 2014年11月より、スチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンは、有機溶剤中継試験項目から特定化学物質健康診断項目の付帯に位置づけられました。
※2: 2014年11月より、スチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンは、有機溶剤中継試験項目から特定化学物質健康診断項目の付帯に位置づけられました。

有機溶剤取り扱い方法

① 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

② 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

③ 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

④ 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

現

生化学的検査
産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査参考資料

産業医学(有機溶剤、鉛)関連検査

産業医学関連検査は、有機溶剤作業、鉛作業を主として、体内に有機溶剤や鉛がどの程度取り込まれているかを定期的にチェックすることを主な目的としているため、結果の評価については、正常・異常の区別を目的としたものではなく、作業環境を改善するための有用な情報を提供いたします。また、労働安全衛生法に基づく各中継試験項目は、各種検査結果報告書を、所轄の労働基準監督署長に提出することが定められています。

有機溶剤、鉛関連検査結果分布表 有機溶剤健康診断結果報告書(有機溶剤中継試験、様式第3号の2)より

対象物質	測定項目	単位	分布		
			1	2	3
トルエン	尿中濃縮値	μL	12以下	1 2 2.5以下	2.5以上
キシレン	尿中メチル馬尿酸	μL	0.5以下	0.5 1.5以下	1.5以上
1,1,1-トリクロロエタン	尿中総三塩化物	mg/L	10以下	1 10 40以下	40以上
トリクロロ酢酸	尿中トリクロロ酢酸	mg/L	3以下	3 10以下	10以上
N,N-ジメチルホルムアミド	尿中N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	1 10 40以下	40以上
ホルムアルデヒド	尿中ホルムアルデヒド	mg/L	2以下	2 5以下	5以上
鉛	尿中鉛	mg/L	3以下	3 10以下	10以上
スチレン	尿中スチレン代謝物	μL	10以下	1 10 30以下	30以上
トリクロロエチレン	尿中総三塩化物	mg/L	30以下	3 10 40以下	40以上
トリクロロ酢酸	尿中トリクロロ酢酸	mg/L	3以下	3 10以下	10以上
テトラクロロエチレン	尿中総三塩化物	mg/L	3以下	3 10以下	10以上

※1: 2014年11月より、スチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンは、有機溶剤中継試験項目から特定化学物質健康診断項目の付帯に位置づけられました。
※2: 2014年11月より、スチレン、トリクロロエチレン、テトラクロロエチレンは、有機溶剤中継試験項目から特定化学物質健康診断項目の付帯に位置づけられました。

検体取り扱い方法

① 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

② 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

③ 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

④ 検体採取日(作業日)を記入してください。ただし、採取2週間前〜1週間前までです。

● アミラーゼ (AMY)

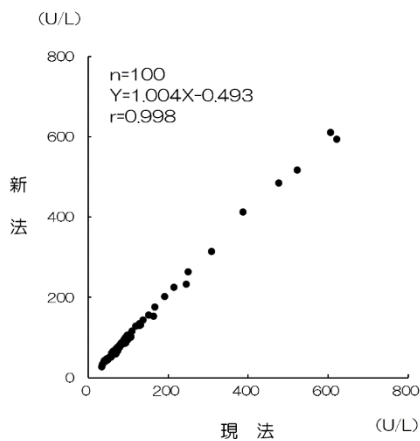
Et-G7-pNPを基質とする測定試薬へ変更いたします。これに伴い、検査方法、基準値、報告範囲、報告桁数を変更し、保存（安定性）を追記させていただきます。

▼現法と新法の比較

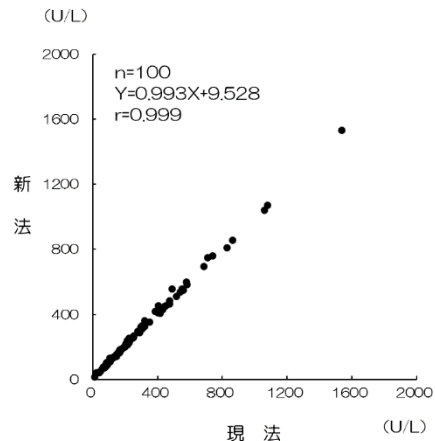
変更内容	新	現
項目コード	血清 変更はありません 部分尿 変更はありません	血清 00109 部分尿 01108
検査方法	JSCC 標準化対応法	酵素法 (Gal-G2-CNP 基質法)
基準値 (単位)	血清 44~132 (U/L) 部分尿 変更はありません 蓄尿 変更はありません	血清 37~125 (U/L) 部分尿 65~700 (U/L) 蓄尿 なし (U/L)
保存 (安定性)	冷蔵 (28日)	冷蔵
報告範囲	3未満、3~99900000	2未満、2~99999999
報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数0桁	有効8桁、整数8桁、小数0桁
JLAC10 コード	変更はありません	血清 3B160-0000-023-271 部分尿 3B160-0000-001-271 蓄尿 3B160-0000-004-271

● 相関図

(血清)



(部分尿)



● 参考文献

日本臨床化学会 酵素・試薬専門委員会：臨床化学 34 (4) : 350~361, 2005.

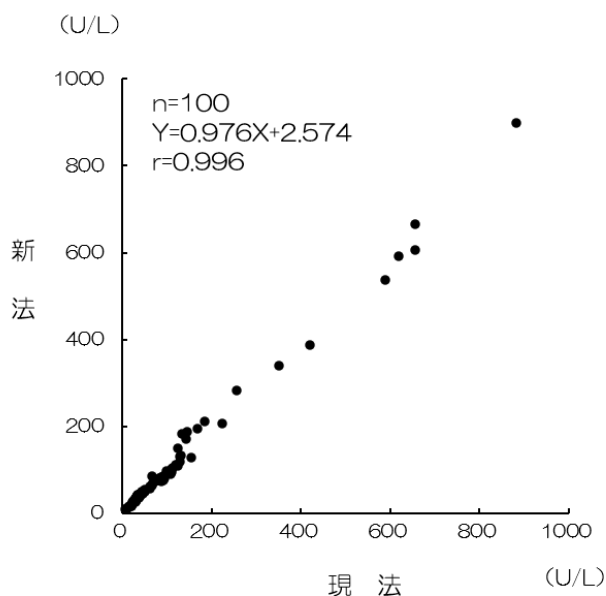
● P型アミラーゼ定量

現試薬と同性能の測定試薬に変更いたします。これに伴い、項目コード、基準値、保存（安定性）、報告範囲、報告桁数を変更させていただきます。

▼現法と新法の比較

変更内容	新	現
項目コード	A346 7	3682 1
検査方法	変更はありません	JSCC 標準化対応法
基準値（単位）	16~52 (U/L)	21~64 (U/L)
保存（安定性）	冷蔵（14日）	冷蔵（21日）
報告範囲	3未満、3~99900000	3以下、4~99999999
報告桁数	有効3桁、整数8桁、小数0桁	有効8桁、整数8桁、小数0桁
JLAC10 コード	変更はありません	血清 3B175-0000-023-271

● 相関図



● 参考文献

高笠 信之：The Chemical Times 201（3）：9~11, 2006.

● シクロスポリン

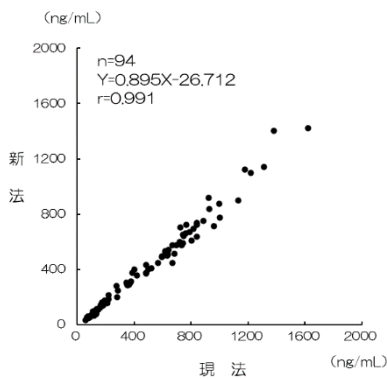
同性能の測定試薬へ変更いたします。これに伴い、項目コード、検査方法、報告範囲、報告桁数を変更し、保存（安定性）を追記させていただきます。

▼現法と新法の比較

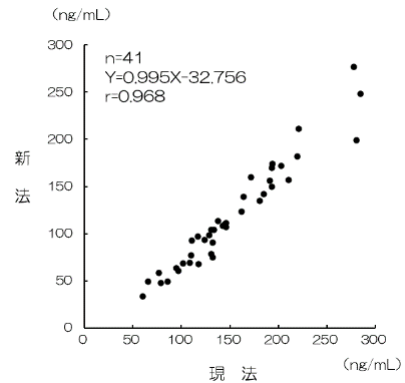
変更内容	新	現
項目コード	A878 7	3873 9
検査方法	CLEIA	ECLIA
基準値（単位）	変更はありません	なし（ng/mL）
保存（安定性）	凍結（14日）	凍結
報告範囲	30.0未満、 30.0~3990、4000以上	30未満、 30~99900000
報告桁数	有効3桁、整数4桁、小数1桁	有効3桁、整数8桁、小数0桁
JLAC10コード	全血 3M805-0000-019-052	全血 3M805-0000-019-053

● 相関図

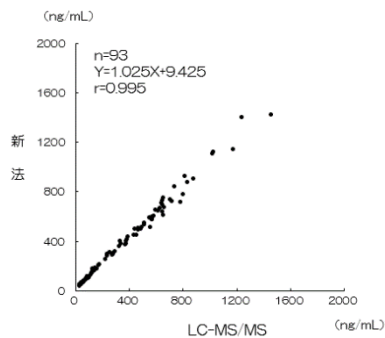
（全体）



（低濃度域）



（新法とLC-MS/MS）



● 参考文献

大前 星佳, 他: 医学と薬学 81 (3) : 257~261, 2024.

● タクロリムス

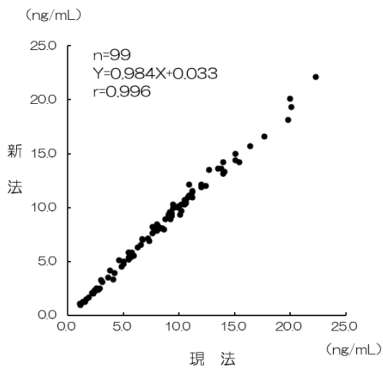
同性能の測定試薬へ変更いたします。これに伴い、項目コード、検査方法、報告範囲、報告桁数を変更し、保存（安定性）を追記させていただきます。

▼現法と新法の比較

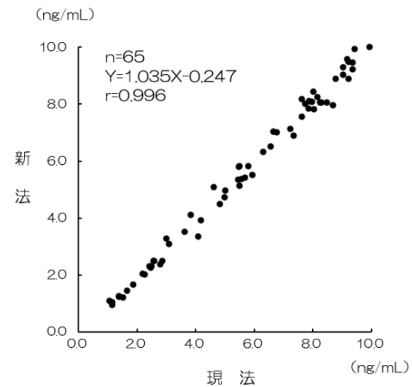
変更内容	新	現
項目コード	A8796	87410
検査方法	CLEIA	ECLIA
基準値（単位）	変更はありません	なし（ng/mL）
保存（安定性）	凍結（21日）	凍結
報告範囲	0.50未満、 0.50～79.9、80.0以上	0.50未満、 0.50～99900000
報告桁数	有効3桁、整数2桁、小数2桁	有効3桁、整数8桁、小数2桁
JLAC10コード	全血 3M810-0000-019-052	全血 3M810-0000-019-053

● 相関図

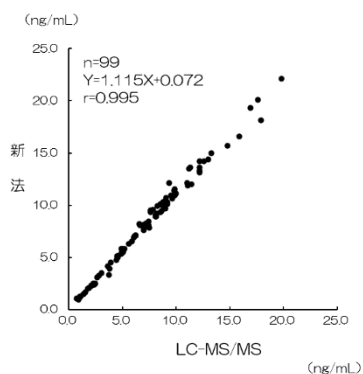
（全体）



（低濃度域）



（新法とLC-MS/MS）



● 参考文献

岡崎 一幸, 他: 医学と薬学 79 (8) : 1109~1116, 2022.

● 末梢血液像

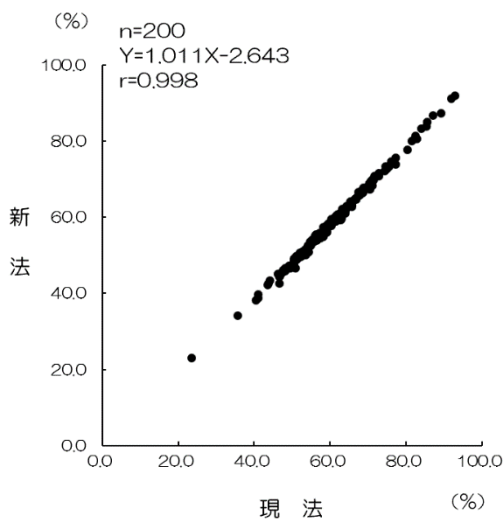
白血球分類の参照法 (reference) について、国際標準になりつつあるフローサイトメトリー (FCM) 法へ変更いたします。これに伴い、基準値を変更させていただきます。なお、試薬の変更はありません。

▼現法と新法の比較

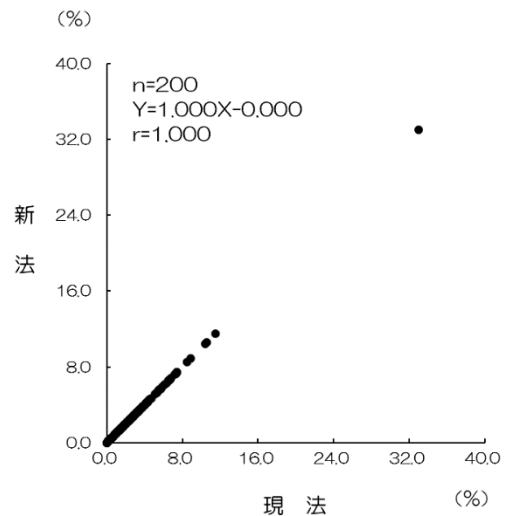
変更内容	新	現
項目コード	変更はありません	L101 7
基準値 (単位)	<p>親に変更はありません</p> <p>【変更になる分画子】</p> <p>好中球 41.2~75.4</p> <p>好酸球 0.7~8.9</p> <p>好塩基球 0.2~1.8</p> <p>単球 4.6~11.8</p> <p>リンパ球 16.5~47.8</p> <p>(%)</p> <p>※桿状核球、分葉核球、骨髓芽球、前骨髓球、骨髓球、後骨髓球、異型リンパ球、赤芽球、OTHER1、OTHER2、OTHER3、大小不同、多染性、奇形に変更はありません</p>	<p>桿状核球 0.0~6.0</p> <p>分葉核球 32.0~73.0</p> <p>好中球 40.0~74.0</p> <p>好酸球 0.0~6.0</p> <p>好塩基球 0.0~2.0</p> <p>単球 0.0~8.0</p> <p>リンパ球 18.0~59.0</p> <p>骨髓芽球 なし</p> <p>前骨髓球 なし</p> <p>骨髓球 なし</p> <p>後骨髓球 なし</p> <p>異型リンパ球 なし</p> <p>赤芽球 なし</p> <p>OTHER1 なし</p> <p>OTHER2 なし</p> <p>OTHER3 なし</p> <p>大小不同 (—)</p> <p>多染性 (—)</p> <p>奇形 (—)</p> <p>(%)</p>

● 相関図

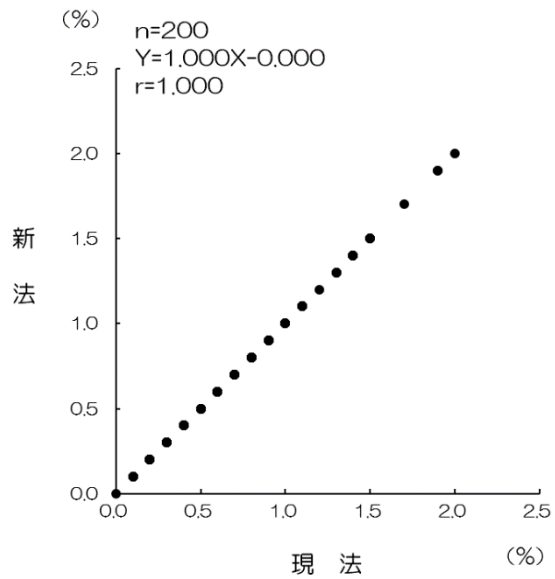
(好中球)



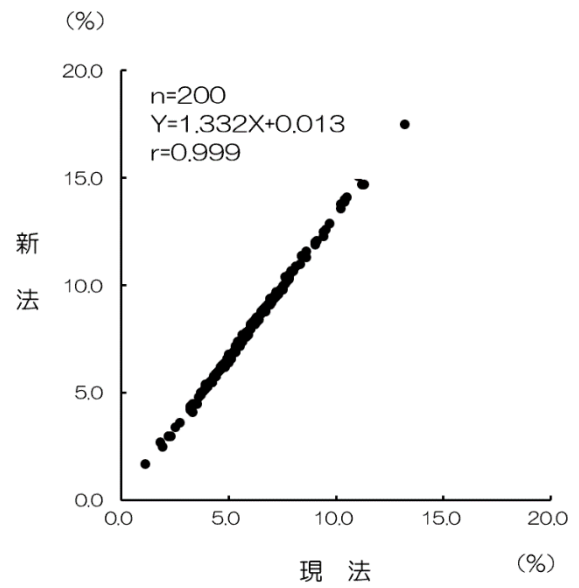
(好酸球)



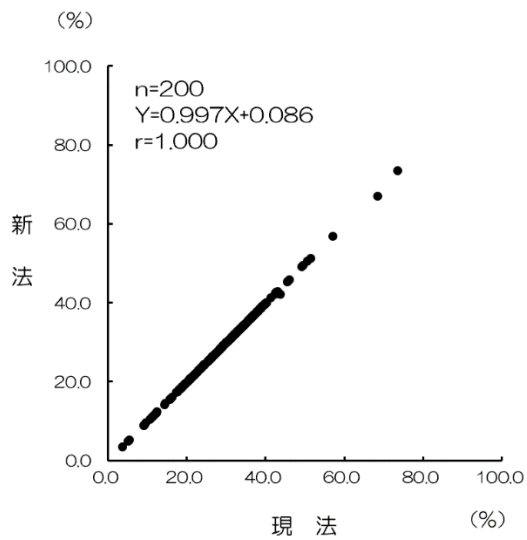
(好塩基球)



(単球)



(リンパ球)



●参考文献

- 西国広, 他: 血液形態観察のすすめ方 第2版: 1~288, 1995.
- 巽典之, 他: 自動血液検査品質保証論: 26~27, 2005.